



法の光 (法光山 妙勝寺 通信) No.224

2018年(平成30年) 8月 1日発行

文責 大岩 清人

— 妙勝寺本堂 きばな
木鼻 —

法師功德品第19 その2

3つ目は鼻の功德です。「様々な香りをかぐことが出来るようになる…。世の中のありとあらゆる匂いを嗅ぎ分けることが出来る。花の匂いや生きとし生けるものにおいを嗅ぎ分けられる…。」あらゆる物ににおいがある様に、人間にも香がただよふのです。仕事に取り組む人にも仕事のにおいがあるともいうのです。一生懸命に取り組む時、それぞれににおいがあるということなのです。そして、その匂いを嗅ぎ分けることが出来る。その匂いは香しい匂いだということです。

4つ目は舌の功德です。1つには食べ物の味が良くなること。もう1つは自分の説法が大いなる効果を上げるということです。これには、その声、その話し方なども含まれます。日蓮聖人の原点は辻説法です。つまり舌の功德だったのです。

5つ目は身の功德です。すぐれた彫刻があります。例えばミロのビーナスの魅力に引き込まれます。美しい弥勒菩薩像や佛像を見た時にも同じように引き込まれることでも分かります。身から自然と出てくるオーラがあるのです。修行を積むことで、身は清浄となるのです。

最後に意の功德が説かれます。意とは心です。心が清らかになると言うのです。世の出来事や人の出来事を聞いた時も、真理にあわせて物事を判断することが出来るのです。そして、常に穏やかな心で生活することが出来るのです。あわてたり、動揺したりすることもなく、落ち着いて物事を判断する事も出来るようになります。くよくよすることもなくなり、不安になることもない。心安穩になるのです。この様に、法華経を修行する功德が説かれるのです。

法華経の心を体得した人は、父母から受けたこの身このままでこれまでの説かれた功德が得られる…。逆に言うと、法華経の心を体得すれば、人は肉体的にも精神的にも生まれ変わるものとなる事を言っているのです。生まれ変わるあり方は、この身のままで高見に上れるということです。これを即身成佛ということです。

空港ピアノ

見入ってしまうTV番組がある。「空港ピアノ」

BS放送で空港に置かれたピアノを旅人が自由に弾くという番組である。

世界のいくつかの空港にピアノが置かれている。空港での待ち時間を自由にリラックスして過ごしてもらいたいとロビーに置かれている。



そのピアノにカメラを置いて撮影するという

内容だ。趣味でピアノを弾く人やプロの奏者や中には移民がこのピアノを弾きに来てこころを癒やすというのもあった。弾く人の境遇についてコメントがついている。今から旅に出るとか、旅行の途中だとか、帰郷していたが大学へ戻るとか、この曲にはこんな思いであるとか、その人の想いがある。

旅人が立ち止まって聞き入る演奏もあるし、演奏しているのを横目で見ながら搭乗口へ急ぐ人もいる。演奏する人のその時の心模様が映像から伝わる。

恋人同士が思い出の曲を奏で一人が歌を口ずさむといった仲むつまじい世界も垣間見える。たどたどしく鍵盤をたたく音にも搭乗する乗客から拍手が起こる。

ピアノの腕前ではなく、この空港でこのピアノの前に座った時空と、一曲に込められたその人の人生が感じられる。

番組を見ていつも思うのは、音楽は良いな～、ピアノは良いな～、楽器が弾けたら良いな～、自分の心を表現することが出来たら良いな～である。

この番組を見て心穏やかになる。

岩手から

大阪北部地震の数日後、岩手に住む友達から地震の被害はなかったかと電話があった。その友達は定年後、余生を楽しむとっていた矢先に、脳梗塞で半身が不自由になった。リハビリを続けても障害は克服しなかった。高校時代山岳部で多くの山を登り、全国大会にも出た体力の持ち主が障害者になった。障害とは背中合わせである。

その友達が「今年の夏ヨーロッパ旅行に行ってくる。息子が世界旅行の途中で、ヨーロッパで合流することにした。車いすでも大丈夫や。」この電話を聞いて嬉しくなった。最近、鉄道の駅で車いすで電車に乗る人が増えた。駅員さんの介助も行き届いている。外出することで色々な刺激を受け、障害者の方が生き生きと生きていける社会になりつつある。「大岩 定年後にお前の所にも遊びに行くからな。」は、ヨーロッパの後に実現するかもしれない。車いすを通して視野を拡大した話が聞きたい。



サッカーワールドカップ

おっさん Japan として活躍した長友佑都31才。

試合中に最も走る選手として取り上げられました。一試合で合計11km走るといいます。3回のワールドカップに出場し、小さいながら存在感を見せつけました。その長友選手のコメントやインタビューでの言葉が評価されています。その一端を紹介します。

「サッカーの才能はないが、努力を続ける才能は誰にも負けない。」
「やっても意味ない・・・というマインドでは、人は絶対に努力をしない。」
「限界を決めているのは自分自身の心。僕は夢や成長には限界がないと思っている。」
「努力の成果はピッチの上だけに現れるものじゃない。たとえば、努力する過程での人との出会いも成果の一つ。」
「努力は必ず報われる訳ではない。だが成功した者は皆努力をしている。」
「満足してしまったら、僕は終わってしまう。」
「逆境に立たされたときこそ、自分の真価が問われる。」
「リスペクトする気持ちが人間関係を良好にする。」
「成長するために、感謝の心は必要不可欠なんだ。」
「壁は成長のチャンスだから壁が好きだ。」
「わずかな一歩であっても嬉しい。小さな幸せを意識するからこそ、努力も継続できる。」
「成功は人の表面を飾り、失敗は人の心を豊かにする。」

どの言葉にも前向きな姿勢が表れています。自分として成長し続けようという姿勢です。自分にあきらめない・・・サッカーを通して人間の成長が目標なのです。

桂歌丸さん語録

「人を泣かせることと人を怒らせること、これはすごく簡単ですよ。人を笑わせること、これはいっちゃん難しいんや。」
「楽になるのは目をつぶる時でいい。苦勞するから最期は楽に目をつぶれる。楽だけしたっていいことなんてありませんから。」

鼻に酸素供給チューブを入れてでも最期まで高座に出られました。「人生は苦しいものだ。生きている間努力(苦勞)する。」と悟られていたんですね。

「生きる為に生きる」

秋田県の名峰・八幡平の西に玉川温泉があります。田沢湖の東側を北上して行くと温泉郷があります。その一つの温泉です。しかし、観光客が訪ねる温泉ではありません。「末期癌で医者から見放された人がほとんど。観光なんかで来ている人は1人もいないよ。」

大浴場もありますが、多くの人はラジウム放射の濃度が高いといわれている岩盤にゴザを敷いて岩盤浴をされるのです。微量の放射線は細胞を活性化させる効果があると信じ長期の湯治に来られているのです。

ここに来られている人は癌を治したいという同じ目的です。ですから、皆さん家族のように接し、励まし合っておられます。



「よく何の為に生きるの・・と言われますが、私たちは“生きる為に生きる”のです。自分の命は自分だけのものではない。人の為でもあるのです。私は独り身なのですが、友達が私を支えてここに連れてきてくれます。人は支えられているのです。その人の為にも生きてみたいです。」

山崎の近くにも同じ効果があると治療に来られるところがあります。今は姫路市になりましたが安富町とみすの山間の「富栖の里」です。ここは温泉ではありません。かつての坑道でラドンが充満している坑道にいますと、放射線ホルミシス効果が得られるのだそうです。多くの方が様々な治療に訪れておられます。

お盆お施餓鬼法要

8月17日(金)13:00よりご先祖の供養をする施餓鬼法要を行います。ご家族でお参り頂き、ご先祖に感謝をして下さい。クールビズでお参り下さい。



初めてのことで

東京のお盆棚経は猛暑の中お参りさせて頂きました。電車は猛暑の為冷房が効いていませんでした。電車を乗り換えて乗り込むと満席。立っていると目の前の人急に立ち上がり「どうぞお座り下さい。」想定外の申し出に「ありがとう」と坐ったものの、席を譲られる年に見えるのか・・と複雑。